

SMAS

Sumitomo Mitsui
Auto Service
Company, Limited

SMASメンテナンスニュース

Volume

11

Maintenance News

Spring 2022



SMASメンテナンスサービスは、
現地密着のサポート体制により、
お客様に安全と安心を提供します!



Sumitomo Mitsui Auto Service



そうだ、これからのクルマのこと、相談しよう。

寒かった冬が明け、クルマを楽しむのに
最適な季節の到来です。
クルマ情報を蓄えて満喫しましょう!!

クルマ豆知識

毎月タイムリーな話題、季節ネタなどを交えながら
クルマに関するためになる豆知識について
取り上げていきます!

Driving Tips _ 16

バッテリーの知らないと損する情報

クルマはいろいろなパーツが組み合わさっていて、どれかひとつが欠けても動かすことができません。ある意味現代のクルマの最重要部品のひとつと言ってもいいバッテリーについて考察していきます。

どのくらいクルマを放置するとバッテリーが上がる?

バッテリーは自然放電するため、放置しておくとバッテリーが上がってしまいます。バッテリーの状態にもよりますが短ければ1カ月程度、長くて6カ月間一度もエンジンを始動しなければ危険です。ただあくまでも目安としてお考え下さい。クルマを長期間使用しない場合は、バッテリーのマイナス端子を外しておくことで、自然放電を防ぐことができます。



バッテリー上がりの要因

バッテリー上がりの要因としては、ヘッドライト/フォグランプ/駐車灯/ウィンカー/ハザード/室内灯などの灯火類のつけ置き、ACC(アクセサリー)モードでの放置、半ドアなど多岐にわたります。基本的にうっかりが原因となっています。バッテリーの状態によっては数時間で上がってしまうケースもありますので注意したいところです。



バッテリーが弱っているサイン

バッテリーからのSOSサインとしては、エンジンがかかりにくくなった、ヘッドライトが暗く感じる、パワー

ウィンドウの開閉スピードが遅くなった、アイドリングストップしなくなったなどがあります。最近ではアイドリングストップが装着されているクルマが当たり前になっていますが、バッテリーを酷使しますので注意が必要です。

電装品のバッテリーへの影響は?

基本的にオーディオ、カーナビ、ドラレコ、カーロケ、レーダー探知機などの後付けの電装品を装着したからバッテリーが上がるといことは、規格外の電力量を使うものでない限りありません。

電装品で注意したいのは、待機電力です。

クルマはエンジンをオフにすると電装系がシャットダウンされますが、エンジンがかかっていない状態でも微小の電流が流れているのです。これが待機電力です。スマートキー、リモコンドアロック、電動スライドドア、カーナビのメモリー保持などに使われています。

後付け電装品ではどこから電源を取っているのがポイントです。シガーソケットの場合はエンジンを切ると待機電力はゼロです。しかし駐車監視機能付きのドラレコ、後付けセキュリティは、バッテリーから電源を取ることになりますので微小の電流が流れている状態となります。待機電力が多ければ多いほど、クルマを放置した時にバッテリーは上がりやすくなりますので要注意です。



Driving Tips _ 17

クルマ初めて物語

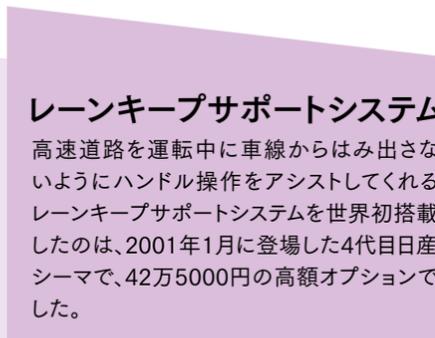
クルマは日進月歩の世界で、常に進化しています。まったく新しい技術もあれば、登場後にいったんは消え、進化して再登場となったものもあります。クルマの技術についてその起源に迫ります。

量産ハイブリッドカーは初代プリウスが世界初。ではそのほかは?



アイドリングストップ

世界で初めてアイドリングストップを搭載したのは1971年に登場した4代目トヨタクラウンで、MT車にのみEASS (Engine Automatic Stop and Start System)がオプション設定されていました。



レーンキープサポートシステム

高速道路を運転中に車線からはみ出さないようにハンドル操作をアシストしてくれるレーンキープサポートシステムを世界初搭載したのは、2001年1月に登場した4代目日産シーマで、42万5000円の高額オプションでした。



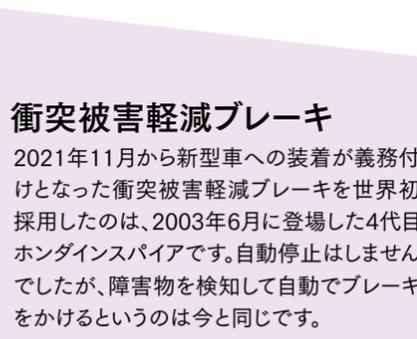
4WS

四輪を操舵する4WSはアポロの月面探査機でも使用されていましたが、量産車用4WSを世界初搭載したのは、1985年に登場した7代目日産スカイライン(R31型)で、HICAS (ハイキャス)を装備していました。4WSは自動運転を見据え見直されています。



電動格納ミラー

ドアミラーが日本で解禁されたのが1983年です。そのドアミラーを日本で初採用したのは、日産パルサーエクサでした。日産はそれを進化させた電動格納ドアミラーを1984年10月デビューの5代目日産ローレルに世界で初採用しました。



衝突被害軽減ブレーキ

2021年11月から新型車への装着が義務付けとなった衝突被害軽減ブレーキを世界初採用したのは、2003年6月に登場した4代目ホンダインスパイアです。自動停止はしませんが、障害物を検知して自動でブレーキをかけるというのは今と同じです。



EV

リチウムイオンバッテリーを搭載する世界初の量産EVは2009年6月に登場した三菱i-MiEVですが、世界初の量産EVは1947年のたま電気自動車と言われています。このクルマを作った東京電気自動車はプリンス自動車の前身であり、つまり現在の日産です。



クルーズコントロール

世界初搭載は1958年に登場したクライスラーインペリアルです。日本車では、1964年4月にデビューしたトヨタクラウンエイトで、オートドライブという名称でオプション設定しました。しかし日本では注目度はそれほど高くなかったようです。



[SMAS流クルマ研究]

クルマのことを知ると、クルマがもっと楽しくなる！
毎号、カーライフを充実させる
情報満載でお届けします！

カーライフを充実
させる情報満載！

Volume _ 13

パトカー研究

警視庁が導入した日産フェアレディZ(Z34型)のパトカー。導入時はマニアもビックリ!!



レガシィB4のパトカー。4WDゆえ降雪地域で大活躍。昇降機装着のためルーフを強化



日本のパトカー史上最も美しい一台に挙げられるのが埼玉県警のマツダRX-7(FD3S型)



ダイハツアトリーの小型パトカー。フロントマスクの黒部分のデザインがとても秀逸



パトカーの室内は普段はなかなか見られないが、イベントなどで公開された時は見逃し厳禁



2021年末から配備が始まった現行型クラウンのパトカー。セダンタイプながらスポーティ



先代クラウンのパトカー。パトカー専用グレードはロイヤル系に設定されていた



先代クラウンロイヤルのパトカーの横にあるごく普通に見えるスカイラインは覆面パトカー



パトカーはパトロールカーの略称です。身近な存在でお子さんにも大人気ですが、お世話にはなりたくないですね。そのパトカーについていろいろ見ていきましょう。

パトカーの種類

ここでは、同じように見えて実は違うパトカーについて見ていきます。

①無線警ら車

白黒ツートンにカラーリングされたセダンタイプの車両です。ルーフ上には赤色灯が装着されています。ほとんどは運転担当と無線担当の2人1組となっています。

②小型警ら車

通称ミニパトと呼ばれるもので、無線警ら車同様に白黒のカラーリング+赤色灯を装備しています。主にコンパクトカーが使用されます。

③交通取締用四輪車

超高速で追跡可能なスペックを持った高性能パトカーで、白黒ツートンとカラーリングが施されていない覆面車両の2タイプが存在します。

パトカーに使用されている車種

パトカーは用途による種別のほか、国費で購入する国有パトカーと、各都道府県の予算で購入する個別のパトカーの2タイプに分類されます。国有パトカーが全国共通なのに対し、個別パトカーはいろいろな車種が選ばれています。

①国有パトカー

有名なのはトヨタクラウンでしょう。現行モデルの220系クラウンも2021年末から一部配備されています。そのほかトヨタパッソ、日産セドリックセダン、同クルー、三菱ディアマンテ、スバルレガシィB4、スズキソリオ、同キザシ、同スイフトなども国有パトカーとして登用されました(現役もあり)。

②各都道府県の個別パトカー

埼玉県警の日産GT-R(R34)、インプレッサWRX STI、警視庁の日産フェアレディZ NISMO、神奈川県警の日産4ドアGT-R(R33)、ホンダから寄贈された栃木県警の初代NSXなどが有名です。またマツダRX-7(FD3S)、三菱GTO、トヨタソアラなど国費で配備された高性能車もあります。

パトカー(無線警ら車)に必要な基準

- エンジンの排気量は2.5ℓのNA相当
- 4ドアセダンが基本(例外あり)
- トランクは450ℓ以上(例外あり)
- サスペンションの耐久性アップ
- 撥水性に優れたシート表皮
- 昇降機を搭載するためルーフの強化
- 手動または自動でエンジン回転数が上げられ、維持できること

例外、変更はありますが市販車よりも耐久性が重視されています。パトカー=クラウンのイメージが強いのは、パトカー用のグレードが専用開発されているからです。

パトカー特有の装備

- 昇降機(最も特徴的なもの)
- ストップメーター(速度取り締まりに使用)
- サイレンアンプ(赤色灯、サイレンの作動に使用)
- 足踏み式サイレンスイッチ(ペダルを踏めばサイレンが作動)
- ルームミラーが2個(運転席、助手席用)
- 防犯板(タクシーと同様にアクリル製)
- 警棒収納(警棒を置くスペース)
- 消火器 など



そのほか、ビデオカメラの装着が一般的でしたが、現在はドラレコを装着しています。

パトカーのメンテナンスはどこで?

一般競争入札によって選ばれた整備工場やディーラーで整備、メンテナンスをしています。こちらは年間契約となっています。ガソリンスタンドについても同様です。

パトカーはチューニングされている?

パトカーのエンジンは専用チューンされている、というのは昔からの都市伝説でもあります。ただ、警察自らがチューニングすることはありません。高速道路などで使用する場合に高性能車が必要な時は独自に県費などで購入しています。

また、リミッター解除についても警察サイドでは正式回答は出ていません。

SMASの活動

【サステナビリティ】

SMASは経営理念や行動指針で「クルマ社会の発展と地球環境の向上に貢献」「思いやりと感謝の精神を持ち、社会や地球環境の向上に貢献」を掲げ、本業を通じたクルマに関する課題解決のほかにも、いろいろな活動をサポートしています。ここではその活動についてクローズアップします。

ゼロエミッション東京の実現に向けたREXEV との協業について

◆SMASでは、2022年1月14日に株式会社REXEVおよび三井住友ファイナンス&リース株式会社と協業し、「ゼロエミッションピークルの普及促進」「再生可能エネルギーの基幹エネルギー化」を通じてゼロエミッション東京の実現へ貢献することを発表しました。

◆これは、電気自動車(EV)を使ったカーシェアリングならびにエネルギーマネジメント(*1)に取り組むREXEVと、EVのメンテナンス付リースを提供するSMASが協力することで、東京都が掲げている「ゼロエミッション東京」の実現を達成しようとするものです。

◆具体的には、都内とその近県に点在するEVの車載蓄電池の充電情報をクラウド上で集約管理し、車載蓄電池の充放電を遠隔制御することでVPP(*2)を構築、EVエネルギーマネジメントの実用化を目指します。

◆本事業を推進力として2025年までに10,000台規模のEVを同システムへ接続しVPPとして活用することを目標に定め、技術開発および本事業への参加企業の拡大を図ります。



(※1)エネルギーマネジメント:EVが持つ大型蓄電池に着目し、駐車しているEVをエネルギーリソースとして利用すること。
(※2)VPP(Virtual Power Plant/仮想発電所):点在する太陽光や蓄電池・EVなどのエネルギーリソースをIoT技術で管理・制御することで、1つの発電所のように機能させる新しい需給調整のしくみ。

会社概要

住友三井オートサービス株式会社
【本社】

◆東京本社／
東京都新宿区西新宿3-20-2 東京オペラシティビル

◆大阪本社／
大阪府大阪市中央区北浜4-5-33 住友ビル

【拠点数】

◆本社・支店・エリアオフィス 38拠点
◆カスタマーサポートセンター(CSC) 12拠点

【車両保有管理台数】

98.8万台(グループ合計、2021年9月末時点)

【車両関連マネジメント総数】

181万契約(グループ合計、2021年9月末時点)

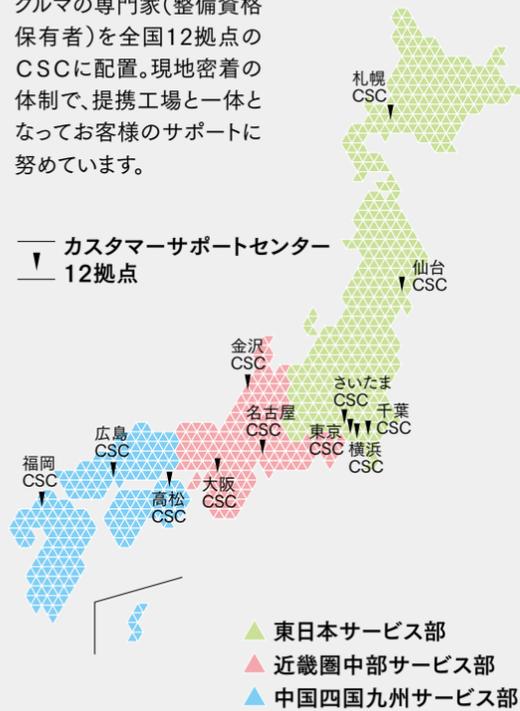
【グループ企業】

- ◆株式会社エース・オートリース
- ◆マツダオートリース株式会社
- ◆株式会社セディナオートリース
- ◆SMAサポート株式会社
- ◆スペース・ムーブ株式会社
- ◆i-SMAS少額短期保険株式会社
- ◆MOBILOTS株式会社
- ◆Sumitomo Mitsui Auto Leasing & Service(Thailand)Co., Ltd.
- ◆Summit Auto Lease Australia Pty Ltd.
- ◆SMAS Auto Leasing India Private Limited

【CSC配置図】

クルマの専門家(整備資格保有者)を全国12拠点のCSCに配置。現地密着の体制で、提携工場と一体となってお客様のサポートに努めています。

— カスタマーサポートセンター
12拠点



SMAC提携メンテナンス工場訪問

Volume

9

株式会社
リースカーサービス・キタガワ

〒466-0059 愛知県名古屋市昭和区福江1-6-4

【代表者】代表取締役社長 北川芳廣

【TEL】052-882-5411

【HP】 <https://www.lcs-kitagawa.co.jp/>



コロナ禍によりインタビューは前回同様にオンラインにて行いました。今回は株式会社リースカーサービス・キタガワの北川亮専務取締役にお話を伺います。

— 御社の沿革をはじめ特長、アピールポイントは？

キタガワ/1940年に自動車整備などを手掛ける北川自動車商会を創業し、太平洋戦争による一定の休業期間を挟み現在に至ります。リース事業につきましては、1975年に自社リースを立ち上げたのがそもそもの始まりで、1980年代からリースメンテナンスに参入しました。弊社は創業以来整備を主軸に



培ってきた技術力と、長い年月をかけて蓄積してきたリースメンテナンスの経験とノウハウを背景に、リースメンテナンスに特化した事業展開をしていることが大きな強みとなっております。対応エリアにつきましても、名古屋市を中心とした4つの拠点ネットワークを活かすことで、より広いエリアをカバーし、お客様

に安心してお任せいただける環境をご提供しております。

— 自動車整備業界は過去と比較してどのように変わりましたか？

キタガワ/整備の点で言いますと、クルマが昔に比べて大きく進化しています。それによって整備工場に求められる技術、対象が変わってきています。そのほかでは自動車整備士になりたいと思う人が年々減少していることも大きく変わったことと感じています。

— 整備士の採用ルートに変化はありますか？

キタガワ/変わっています。整備士採用の一番の主流は自動車整備学校の卒業生でしたが、ここ3年間、整備学校から入社したメカニックはゼロとなっています。そのため、メカニック志望の外国人留学生、また技能実習生に頼らざるを得ない状況です。

— 現在抱えている課題はありますか？

キタガワ/整備士採用が最重要課題と考えており、現在は整備士不足で仕事が回らない、お断りするという状況までには至っていませんが、深刻な問題であると考えております。

— 今後ありたい姿は？

キタガワ/クルマが大きく進化し変わってきていますが、クルマが走っている限りは整備の重要性、需要は変わりません。今後もこれまで整備を中心にやってきた歴史、また、クルマ社会の安全性を整備面から支えるというプライドを忘れずにやっていく所存です。そして驕ることなく、時代の変化に合わせて変容していける企業でありたいと思います。

— 最後に一言お願いします。

キタガワ/名古屋にはキタガワがあるから安心、とリース会社様、お客様双方から思っていただけの存在になっていきたいと思っています。

全国CSC巡り

Volume

9

名古屋CSC

〒460-0003 愛知県名古屋市中区錦2-16-26

SC伏見BLDG.

【TEL】052-231-3064

【管轄エリア】愛知県、岐阜県、三重県、静岡県

コロナ禍によりインタビューは前回同様にオンラインにて行いました。今回は名古屋CSCの山崎貴司センター長に話を聞きます。

— 名古屋CSCの特長、アピールポイントは？

山崎/名古屋CSCの管轄エリアは静岡、愛知、岐阜、三重の4県を担当しております。メンバーは総勢9名が在籍し、お互いがカバーしあうことのできるチームワークが最大のアピールポイントです。愛知県は自動車の保有台数が全国という自動車産業の中心地ですから、マーケットニーズの変化をいち早く察知できるという良い面があります。

— 管轄されている地域によるユーザー、カスタマーの特徴はありますか？

山崎/管轄エリアが関東の出口(静岡)から関西の入口(三重)ということで、文化や方言の移り変わりを強く感じます。また岐阜県を除き、太平洋側が中心であるため、冬季の降雪はあまり多くありません。しかし、万が一に備えて冬タイヤを契約に含めるお客様もいらっしゃいますので、雪の予報が出た際にタイヤ履き替えが殺到することや、保管場所の確保が課題となっています。雪道性能の向上が著しいオールシーズンタイヤは、それを解消してくれるひとつと考えております。

— 最後に一言お願いします。

山崎/最近ではEVの契約が増え、クルマがどんどん変わってきています。しかし、タイヤ、アクセル、ブレーキなど基本の部分は変わりません。EVではこれまでにないバッテリートラブルも発生するでしょう。そういう意味では定期点検の重要性が高まります。まずは私どもが知識の点において後れを取らないようにして、頼れるCSCでありたいと思っています。



クルマにまつわるお役立ち情報をオンラインでも！

モビリティの可能性を追求する



過去、100名以上の企業担当者さまにご参加いただいた人気のウェビナーをオンラインで無料公開中。
あなたが疑問に感じていることも、ウェビナーで解消されるかも？！



人気ウェビナーTOP3!!

- 1 『安全運転管理者におけるアルコールチェック義務化』
- 2 『今さら聞けないEVのコト』
- 3 『車両管理者なら知っておきたい車両管理のルールとポイント』

- アルコールチェック関連
- EV関連
- 安全運転関連
- 車両メンテナンス関連



こんな方におすすめ!!

- アルコールチェック義務化について関心がある方
- 法改正の対応をご担当されている方



こんな方におすすめ!!

- EV導入を検討している方
- EV関連の基礎知識を知りたい方



こんな方におすすめ!!

- 初めて車両管理者になられた方や車両管理にご興味をお持ちの方



その他お役立ち情報満載！

モビリティス



スマホやPCから！



お役立ち情報をメールで配信！



日常業務のヒントに！

